

# CAMD 報告会

(Center for Development of Advanced Medicine for Dementia )

## 老化・老年病に関する長期縦断疫学研究(NILS-LSA)の 15年

予防開発部  
下方 浩史 部長

平成24年10月11日(木)16時00分～  
第一研究棟2階会議室

人間の老化には身体的な要因だけでなく、社会的なあるいは精神的な要因を含む多くの要因が関連している。そのため、老化の研究には広い領域の多くの種類の検査や専門家が必要である。これに加えて、老化による本来の変化を観察するためには、同一の人を何度も繰り返し検査していくような「長期縦断疫学研究」といわれる研究が必要である。

平成8年に国立長寿医療研究センターに疫学研究部と長期縦断疫学研究室が設置された。約1年半の準備期間をおいて、平成9年11月に「国立長寿医療研究センター老化に関する長期縦断疫学研究 (National Institute for Longevity Sciences - Longitudinal Study on Aging : NILS-LSA)」を開始した。NILS-LSAの第1次調査参加者は長寿医療研究センター周辺の愛知県大府市、東浦町地域在住の方々から無作為に抽出された40歳から79歳の2,267名であった。その後、参加者は2年ごとに調査され、また新たに参加者を加えながら調査を続けてきた。平成24年7月に第7次調査を終了したが、今までのような2年ごとの調査を継続して行うことが困難となり、調査を終了することとした。以後は郵送調査などによるフォローアップ・スタディなどを行う予定である。

NILS-LSAでは医学、身体組成及び身体計測、運動機能、栄養、心理の各分野での詳細な質問票や検査によって、老化の進行が評価されている。これらのデータは、高齢者における老年病や抑うつ、精神障害、日常生活活動の障害、低栄養や身体活動の低下などの高齢者の健康問題の要因の研究に有用であり、また高齢者の疾患や健康問題の予防にも必要な貴重なデータである。15年間にわたる調査の経緯とその成果、今後について概説する。